

委員意見一覧表(基本高水設定)

区分	設定1、設定2	少観測点数	引伸し倍率	棄却基準	ピーク流量(m ³ /s)	備考
池淵委員	設定2	採用(貴重な資料)	2.5倍以下	実績降雨データから1/400	最大値	
奥西委員	設定1	不採用、参考にはする	2倍以下	要検討	統計的最尤値	他の方法による結果と突き合わせて検証
川谷委員	「考え方」は設定2を基本 「降雨波形」は両設定を同等に考慮	計算結果は重要な参考値とする。 採用・不採用の二者択一的な取り扱いはない。	2.5倍以下程度を基本にするが、より以上に引伸ばし後の降雨波形を考慮する。	実績降雨データに基づく設定を重視するが、絶対的な基準とは考えない。	計画対象降雨の波形などを検討のうえ選定 4,600±200	
畑委員	設定1を基礎に検討してみた。	雨量が大きい場合及び流量データがある場合は活用すべき。流量計算値は参考値として利用。	倍率にこだわらず、起こり得る降雨波形か否かが判断基準。	1/200確率程度で起こり得るか否かが棄却の判断基準。左項の判断基準でもある。	4,000程度を最大とする一定範囲	
浅見委員	設定2	要検討	要検討	わかりません	基本的に最大値	
武田委員	設定2	不採用	2倍程度	実績降雨データ	基本的に最大値	
法西委員	設定1 カバー率70%	不採用	2倍以下	設定2の場合も、引伸し倍率2以下	アバウトな数値 3,700～3,750	
村岡委員	設定1	不採用	2倍程度	-	3,500-4,000	
長峯委員	設定2	不採用	2.5倍以下	要検討	3,964(少観測、2.5倍以下棄却、最大値)	
茂木立委員	設定2	採用	2倍程度	設定根拠を検討の上、判断すべき	基本的に最大値	
池添委員	設定2	貴重な資料として採用	多くの降雨データから抽出	実績降雨データから1/400	最大値を採用	
伊藤委員	設定2 出来る限り多くの洪水を検討対象にするため	不採用 先のシミュレーション結果では採用は困難	2倍程度 国土交通省の「河川砂防技術基準」および「中小河川計画の手引」に準拠	要検討 地域分布による棄却基準、時間分布による棄却基準については検討が必要	左記の結果を踏まえての最大値、ただし採用に当たっては十分な検証を行う	
岡委員	設定2	貴重な資料ではあるが基本高水設定には一考を要すかも?	2.5以下	検討要す 基本的には実績データ	棄却後の最大値	
岡田委員	設定1	採用しない	2.0倍 2～2.5倍は各データについて要検討	要検討	MAX4,000	
加藤委員	設定2	採用	2.5倍以下	時間分布、地域分布で極端に偏った降雨を棄却して、減った降雨群により治水計画を検討する。	棄却基準を採用した後は、安全性を考慮して最大値を採用	
草薙委員	設定2	採用 (要検証)	2.5倍以下	要検討	最大値 (要検証)	
酒井委員	設定2	採用	2.5倍	要検討	最大値	
佐々木委員	設定2	多少のリスクよりは資料の貴重性を評価し、採用	2.5倍にすると着目したい降雨 S.48,H8 が洩れるため、2.8倍もしくは3.0倍以下	基本的には実績降雨	基本的には最大値 5,000	
谷田委員	設定1、 カバー率70%	不採用	2倍以下	不採用	3,800程度	
田村委員	設定1、設定2を含め複数の検討結果と条件見直しから判断	設定2において基本的に採用しない	設定2において、2.5倍以下	要検討	3,800～4,000	可能な限りの土地利用の見直し、総合治水の検討、超過洪水対策の検討を行う
土谷委員	設定1 引き伸ばし倍率を2倍以下にするなら、設定2でもよい	不採用	2倍以下	設定2でも2倍以下	3,800程度	
中川委員	選定の必要はない(設定2、設定1も参考)	不採用	2倍程度	要検討(1/400は大きすぎる)	最大値は不可(1/400棄却の場合)	
松本(俊)委員	設定2	採用(貴重な資料)	3倍以下	実績降雨データ	基本的に最大値 (5,045)	
山仲委員	設定2	不採用	3倍	要検討	最大値	